

 <p>市長 岡村 秀人</p>	<p>愛知県</p>  <h1>大府市</h1>  <p>SUSTAINABLE HEALTHY CITY</p>	<p>【データ】 令和6年4月末日現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人 口:92,939人 ・世帯数:40,740世帯 ・面 積:33.66km² ・市の花:クロガネモチ、サクラ ・市の木:クチナシ、ツツジ ・特産物:木の山芋、ブドウ、玉ねぎ <p>【連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当:健康未来部健康未来政策課 ・電話:0562-85-3232
---	---	--

**昭和45年の市制施行以来、まちづくりの基本理念は「健康都市」ひとすじ
「日本一元気な健康都市おおぶ」の実現を目指します**

健康都市おおぶ



平成18年に市民公募で選ばれた健康づくりマスコットキャラクター「おおぶちゃん」。体のかたちは大府市の地形、明るい黄色は元気のしるし、頭の花は市の花クチナシ。タスキをかけて未来への健康の橋渡し役を務めます。平成29年8月に、これまでの活躍が認められ、市の公式マスコットキャラクターとなりました。



大府市は、健康経営優良法人2024(大規模法人部門)に認定されました！

市内事業所に対しても、大府商工会議所、全国健康保険協会愛知支部との三者連携協定を締結し、健康経営を積極的に推進しています。

大府市の特徴 | 大府市は、知多半島のつけ根に位置し、名古屋市に隣接しています。市の中央をJR東海道本線が走り、北部に伊勢湾岸自動車道、西部に知多半島道路を有するなど、交通アクセスに恵まれています。良好な住宅地の形成や子育て支援の充実等により人口も増加し、住環境と産業と自然が調和した都市として発展しています。

健康都市おおぶのあゆみ | 大府市は、第1次総合計画(昭和49年)から一貫して「健康都市」の実現を都市目標に掲げ、昭和62年には、市民総ぐるみの健康増進を目指して「健康づくり都市宣言」を行いました。また、平成18年には、WHOの提唱する健康都市連合及び健康都市連合日本支部に加盟し、平成29年には、『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進条例」を制定するなど、「健康都市おおぶ」としての環境整備に取り組んでいます。

ウェルネスバレー構想 | 大府市の南部には、国立長寿医療研究センター、あいち健康プラザ、あいち小児保健医療総合センター、認知症介護研究・研修大府センターなど、健康・長寿に関する研究機関や施設が集積した「ウェルネスバレー」があります。「幸齢(こうれい)社会」の実現を目指す「ウェルネスバレー構想」を掲げ、関係機関との交流や連携を進めながら先駆的な取組を推進し、全国に情報発信しています。

「バイオリンの里 おおぶ」の実現に向けて | 大府市は、令和3年に鈴木バイオリン製造(株)の本社工房が市内に移転したことなどを機に、「日本のバイオリン王」と謳われた鈴木政吉がかつて夢に描いた「バイオリンの里 おおぶ」の実現に向けた取組を進めています。野外クラシックコンサートや市庁舎ロビーコンサートに加え、保育園での音楽会や小学校でのバイオリン授業など、美しい音色に親しむ数多くの事業を実施しています。

◆10か月児食べる機能健診を開始！

こどもの口腔機能や発育状況を踏まえた離乳食指導を行っています

近年、離乳食のつまづきや不正咬合の割合が増加している現状を受け、令和5年度から「10か月児食べる機能健診」を開始しました。

離乳食完了期前に、離乳食の進み具合や口腔の発達状況、口腔習癖等の有無を確認し、乳児の歯と口腔の成長発達に応じた食べ方を支援することで、正しく咀嚼、嚥下ができるようになることを目指しています。また、子育て環境や子どもへのかかわり方を確認し、発達を促すとともに、座談会や個別相談も実施し、保護者の不安解消の場としても活用しています。



◆ライフリンクと自殺対策SNS等相談支援事業に関する連携協定を締結！

従来の対面や電話での相談がしづらい方への相談支援を充実し、自死対策を推進します

多くの若者の日常的なコミュニケーションツールとなっているSNSを自殺対策の相談窓口のひとつとして活用し、相談機能を充実させるため、令和5年7月、国の地域自殺対策強化事業のSNS等相談事業を運営するNPO法人自殺対策支援センターライフリンクと連携協定を締結しました。

今後、ライフリンクが実施するSNS等相談事業を利用した方のうち、市に連絡することを同意した相談者について、ライフリンクから市に情報提供があり、具体的な支援につなげていきます。



◆WHO欧州健康都市ネットワーク視察団来訪！

大府市の認知症に対する不安のないまちづくりの取組と日本文化を紹介しました

令和5年11月、WHO欧州地域事務局およびWHO西太平洋地域事務局が企画・実施する「WHO健康都市国際交流プログラム」に協力し、欧州健康都市市長団15名の視察を受け入れました。大府市が、全国で初めて認知症総合条例を制定するなど、認知症施策に力を入れていることから、高齢者に優しい健康都市(Age-Friendly Healthy City)の優れた実践例を学ぶ場として、視察先に選定されたものです。

視察前半では、市長自ら、市の認知症施策についてトップセールスを行うほか、国立長寿医療研究センターによる「認知症不安ゼロ作戦」のデモンストレーションを行いました。視察後半では、大府市茶華道連盟の協力による呈茶のおもてなしを実施し、美しい日本文化に触れていただきました。

